

角見んとて、人々取はやし、耳を柱におしあて、中間に小判一兩はさみ、片耳をひき、若小判おとしたらんには曳手に興へ、又曳えすんば一兩出すべしとの約束にて、さしもの又八今をかぎりの力を出し曳しに、少しも動かす、後には又八が腰に綱をつけ、二十人あまりとり付ひきしかど、更にゆるがざりしかば、又八負て金を出しけるとなり。

〔倭名類聚抄<sup>三</sup>耳埴<sup>目</sup>〕耳埴 辨色立成云、耳埴和名美々太比埴丁果反

〔箋注倭名類聚抄<sup>二</sup>耳埴<sup>目</sup>〕按説文、乳耳埴也、無冤録、耳垂耳之下垂、即此所謂耳埴也。略今俗呼美々多夫、

〔類聚名義抄<sup>二</sup>耳埴<sup>目</sup>〕耳埴ミ、タヒ

〔増補下學集<sup>上</sup>二耳埴<sup>目</sup>〕

〔太平記<sup>九</sup>〕主上上皇御沈落事

爰ニ備前國ノ住人中吉彌八略棟梁ト見ヘタル敵ニ馳並ベテムズト組馬ニ疋ガ間ヘドウト落テ、四五丈計高キ片岸ノ上ヨリ、上ニ成下ニ成コロビケルガ、共ニ組モ放レズシテ、深田ノ中ヘコロビ落ニケリ、中吉下ニ成リ、舉様ニ一刀サ、ントテ、腰刀ヲ搜リケルニ、コロブ時拔テヤ失タリケン、鞆計有テ刀ハナシ、上ナル敵中吉ガ智板ノ上ニ乗懸テ、鬢ノ髪ヲ颯テ頸ヲ搔ントシケル處ニ、中吉刀加ヘテ、敵ノ小腕ヲ丁ト掬リスクメテ、暫ク聞給ヘ、可申事アリ、御邊今ハ我ヲナ恐給フソ、刀ガアラバコソ、勿返シテ勝負ヲモセメ、又續ク御方ナケレバ落重テ、我ヲ助ル人モアラジ、サレバ御邊ノ手ニ懸テ、頸ヲ取テ、被出サタリトモ、曾實檢ニモ及マジ、高名ニモ成マジ、我ハ六波羅殿ノ御雜色ニ、六郎太郎ト云者ニテ候ヘバ、見知ヌ人モ候マジ、無用ノ下部ノ首取テ、罪ヲ作り給ハンヨリ、我命ヲ助テタビ候ヘ、其悦ニハ六波羅殿ノ錢ヲ隠シテ六千貫被埋タル所ヲ知テ候ヘバ、手引申テ御邊ニ所得セサセ奉ント云ケレバ、誠トヤ思ケン、拔タル刀ヲ鞆ニサシ、下ナル中